

## 日本文学研究学域 入学前課題講評

入学前課題は以下の通りでした。

以下の著作のうち、いずれか一冊を熟読し、著者の述べるところを要約した上で、それに対する自分の考えを具体的な根拠を挙げて述べてください。なお、要約は400字程度、自分の考えは1000字程度とします。

- |                    |           |
|--------------------|-----------|
| ① 笹原宏之著『漢字の歴史』     | ちくまプリマー新書 |
| ② 井上真琴著『図書館に訊け！』   | ちくま新書     |
| ③ 吉本隆明著『日本近代文学の名作』 | 新潮文庫      |
| ④ 小西甚一著『日本文学史』     | 講談社学術文庫   |

課題作成に当たって①笹原宏之著『漢字の歴史』、③吉本隆明著『日本近代文学の名作』を選択した人がそれぞれ4割、②井上真琴著『図書館に訊け！』を選択した人が2割、残念ながら④小西甚一著『日本文学史』を選択した人はいませんでした。

ほとんどの人は、漢字、日本文学、図書館についてそれぞれの著作を丁寧に読んだ上で、自らの経験に照らし、新たに気づいたことや理解を深めることができた点、今後の言語生活の上で心得ておきたい事項などを丁寧に論述していました。

具体的に優れた2、3の例を挙げると、IT環境の普及に伴う漢字との接し方の変化について自らの考えを説得力を持って述べたもの、高等学校で学んだ夏目漱石「こころ」についての斬新な分析への批判を展開したもの、インターネット上で見ることのできない「灰色文献」を例に挙げてネット上の資料検索と図書館での文献調査の差異をわかりやすく記述したものなどです。

提出されたものの多くは課題の意図を的確に理解して記述がなされており、作成者の読解力、分析力、洞察力、表現力の高さと課題への真摯な取り組みの姿勢が十分に読み取れるものでした。ただ、一部に課題図書の要約と自分の考えの区別が明確でないものや、指定に対して字数が極端に少なく、課題への取り組みの姿勢が疑われるものがあったことは残念です。思い当たる人は、入学までに再度著作を読み返し、自ら課題を書き直してみてください。

今回の課題を通して学んだことや考察したこと、また問題意識をもったことを、大学入学後の学習・研究の動機とされることを期待します。

提示した4冊は、何れも日本文学研究学域で学ぶ上で重要な著作です。選択しなかった3冊についても入学までに読んでおくことを強く勧めます。今回選択した人がいませんでしたが、特に④小西甚一著『日本文学史』は揺るぎない評価を得ている歴史的名著です。是非目を通しておいて下さい。